

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 102 号 2025 年秋号

2025 年 9 月 5 日発行

ヘイケボタルの観察会

昨年はホタル幼虫の放流が出来ず観察会はありませんでしたが、会員の観察から自生が確認されました。今年は市民向けポスターを掲示し、6月に3回実施し最多で17匹が確認されました。

ビオトープ自生のホタルと放流したものとの共存です。今後も継続して増えていくように生息環境の整備に努めます。以下が観測結果です。

- ・ 4月20日(日) 松清さんが飼育した幼虫100匹をホタル水路に放流。
- ・ 第1回 6月15日(日) 14日(土) 雨天の為延期、20時～無風、月明かりなし、気温26℃
2匹を確認。ホタル水路木道手前で1匹、Bゾーンの木村家側歩道沿いで1匹発光。

観察者は会員1人

- ・ 第2回 6月21日(土) 20時～ 月明かりなく強い南風、気温26℃
14匹を確認。Aゾーンホタル水路、ヤナギの下草むら5匹が交互に発光し一部飛翔。
水路手前の木の枝に2匹、南側木道沿いショウブで1匹で発光、Bゾーン木村家側木道沿いのヨシの中で6匹が交互に発光。観察者は会員1人

※ 6月22日(日) 20時～会員家族3人からの観察報告。他に市民4人で17匹を確認。

Aゾーンホタル水路付近と近くの田んぼ畦付近で9匹、Bゾーン木村家側の水路と木道沿いのヨシの中で8匹が飛翔。

- ・ 最終回 6月28日(土) 20時～月明かりなく無風、気温26℃、14匹を確認。

Aゾーンホタル水路周辺とヤナギの奥の草むらで11匹が発光と飛翔、Bゾーン木村家側木道沿いのヨシの中で3匹の発光。観察者は会員2人、市民家族連れ8人。同日に会員家族5人からも観察報告がありました。

(藤平 三郎)

ホタル観察会推移				2025/6/28			
年	観察日	確認数(匹)	参加者	観察者	Aゾーン	Bゾーン	
2025	6月28日	14	10	藤平	11	3	市民8人
	※ 6月22日	17	7、観察会以外	佐藤(清)	9	8	市民4人
	6月21日	14	1	藤平	8	6	
	6月15日	2	1	藤平	1	1	
2024	7月21日	10		佐藤(清)	10	0	
	6月28日	14		山村	12	2	
	6月24日	16		佐藤(清)	10	6	
	6月22日	13		藤平	5	8	
	6月20日	7		久米	3	4	
	6月17日	9		倉岡	5	4	
	6月16日	9		佐藤(清)	0	9	
	※ 6月14日	6	自生確認	小笠原	1	5	
	2023 6月24日	20	45人	幼虫放流数	11	9	
	6月17日	16	6	120匹	12	4	
	6月10日	10	18		6	4	

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか !!

ヘイケボタルの観察会



・ 日時 : 2025 年 6 月 14 日 (土)
19:45 ~ 20:15
※雨天の場合は翌日です

・ 場所 : 名戸ヶ谷ビオトープ東側のホタル水路、
全域の木道沿い

・ 用意するもの : 懐中電灯
明かりをホタルに向けしないでください。

※ 次回予定
6 月 21 日 (土) 19:45 ~ 20:15
6 月 28 日 (土) "

※この時期、上記以外に7月上旬頃まで観察が出来ます。暗いので足元に十分注意して下さい。

名戸ヶ谷ビオトープの湧水について

今年も東葛地区は少雨で猛暑が続き、ビオトープの湧水においても発足当時と大きく変化しています。ここ数年に入会された会員も多くなりましたので、発足前に報告された専門家の資料をもとに現在の状況と併せてお知らせします。

1. 1993 年の柏市の調査では、名戸ヶ谷ビオトープの湧水量が市内で一番多い（約 24ℓ/㍍とあります。

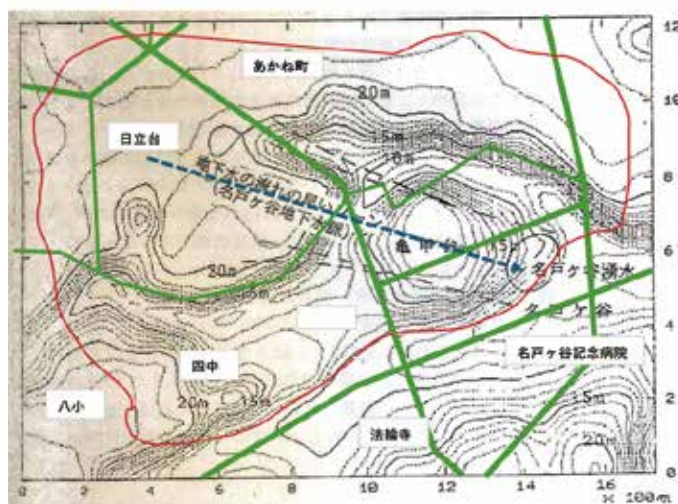
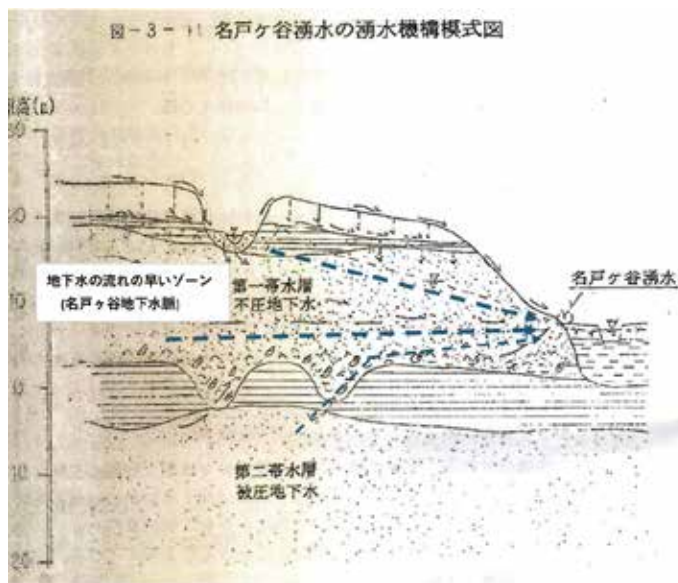
2. ビオトープの湧水は図の赤線区域内（亀甲台・あかね町・日立台・名戸ヶ谷）の第一帯水層範囲とその下のもっと広い範囲にある第二帯水層からと想定されています。

3. 近隣の市街化により第一帯水層への雨水浸透が減り、湧水量も減っていますが、かろうじて第二帯水層にある地下水が常時湧水となっているようです。

4. 現在の主な湧水地点は、

- ①もち田前ネコヤナギ下のパイプ（A ゾーン）
- ②鈴木邸側湧水池底と上のパイプ、看護師寮隣の排水溝（A ゾーン）
- ③木村邸前歩道斜面下 U 字溝には湧水が滴下しています（B ゾーン）

*田んぼや B ゾーン湿地では底から少しずつ地下水が湧いています。（小笠原 智）



赤線内：第一帯水層範囲
青点線：地下水の流れ
緑線：県道、主な市道

測定年月	測定位置		湧水量 (ℓ/分)	ℓ/1日(24h) 換算量	備考(測定者)
2005.07	Bゾーン 水汲み場	①	10.4	14976	柏市
2009.07	同上	①	1.6	2304	同上
2010.03	同上	①	1.2	3629	同上
2011.07	Aゾーン土留め下P	②	4.9	7136	同上
	Aゾーン土留め下P	②	1.8	2592	
2016.11	Aゾーン ネコヤナギ下	③	1.5	2160	育てる会
	Aゾーン ホタル水路	④	27	38880	
2020.06	Aゾーン土留め下P	②	6.7	9662	柏市
2025.06	Aゾーン ネコヤナギ下	③	5.6	8064	柏市
	Aゾーン ホタル水路	④	27.8	40032	
2025.08	(湧水池底)	⑤	13.5	19440	育てる会
	(鈴木邸横P)	⑥	7.6	10944	④=⑤+⑥+⑦
	(鈴木邸前の水路)	⑦	6.7	9648	

*B ゾーン 水汲み場は 2011 年以降計測不可となり、現在は出水もありません

湧水量と変化について

ビオトープの田んぼは猛暑でも水が涸れません。何故でしょう。水はどこから出ているのかな？三角池や湧水池も同じです。水は全て地下からの湧水で本編の説明の通りです。亀甲台や日立台、あかね町、名戸ヶ谷に降った雨が庭や畑で地下に浸透し、地下水となって地中を通してビオトープ北側台地際から湧水として出ているのです。

A ゾーンは以前倉庫奥に木村邸があり、現在借用している倉庫下には池の跡があります。池では

右ページに続く→

ビオトープの水はどこから出ているの？



野菜の洗浄や飲み水にも使用していたと先代の木村きくさんが話していました。ホタル水路水源の湧水池からの水量は 10 年前と変わっていませんが、倉庫下パイプからの水が無くなったので、もち田側にパイプ配管して対応しています。旧木村邸から鈴木邸の北側道路下からの湧水量もほとんど変わらずオニヤンマのヤゴも棲息しています。

B ゾーンは育てる会発足前から多くの住民が水汲みに来ていた湧水が枯喝してしまい、現在、計

測できる湧水地点はありません。降雨時の雨水と地下から湧き出ているわずかな水で三角池などの湿地が維持されています。B ゾーンでもヘイケボタルが自生しているので今後の安定した水量の確保が生息には必須です。先月、突然出水して 5 日間で止まってしまった広場前擁壁の湧水の原因は不明です。B ゾーンの水確保対応が急務です。

(小笠原 智)

春の生態系調査

6月18日(水) 晴れ、 気温 31℃、 9:00～10:00

朝から快晴で厳しい暑さとなりました。参加者は講師 松清氏、他会員 5 名で A、B ゾーンを回り観察しました。ナツアカネ(赤トンボ)が早くも飛び回り、又ビオトープの主(ぬし)、1m超のアオダイショウがゆったりと市道を横切っていました。猛暑の影響か鳥類は殆ど飛んでいません。今回確認された種は 40 種で昨年同時期の 42 種とほぼ同レベルです。

皆様の保全活動により生息環境は維持されています。

(藤平 三郎)

生きもの名	2016~21	2022年			2023年			2024年			2025年		
	年間	春	秋	年間	春	秋	年間	春	秋	年間	春	秋	年間
種数	179	44	20	131	38	39	132	42	32	133	40	0	0



← 生きもの観察中 →



生きもの名前をリストアップ



ナツアカネ



アオダイショウ

トンボ池を造りました

現在、名戸ヶ谷ビオトープで水生生物が生息する池は「三角池」と「湧水池」です。以前はザリガニ釣り場にタナゴやギンブナ、ゲンゴロウ等も見られましたが湧水の減少と夏場の雨不足による渇水で死滅してしまいました。

会員の高齢化、猛暑時等での稲作作業負担軽減策として田んぼを休耕とした区域の利用を検討し、ビオトープとして水生生物の生息地、また観察用として「トンボ池」を造りました。

田んぼを半分に仕切り、以前休耕にしたカワセミ池と合体した約 30 坪の池です。シオカラトンボの産卵、アメンボ、ウシガエルのオ

タマジヤクシ、カワセミの飛来等が見られます。「池」として深さが不足しているので、冬期に底浚いを行いますのでご協力をお願いします。

(小笠原 智)



池の中央に水盤に入れたスイレンを埋めています。

手前の池は以前の「カワセミ池」です

月例活動状況の報告（6月から8月まで）

6月22日（日）雨天のため15日予定を延期

朝から晴れ上がって真夏の陽気となり、南風がやや強く吹いて多少涼しさも感じました。作業は、田んぼの水田雑草コナギ取り、Bゾーン木道沿いのヨシ、セイタカアワダチソウなど外来種の刈り取りです。熱中症に十分気を付けながら作業を終え、ビオトープだより第101号夏号の配布も行いました。当日はボーイスカウト団が来所して三角池でザリガニ釣りなどを楽しんでいました。作業を終え、整備された倉庫内休憩所等で給水しながら歓談しました。



手作業と長い竿の熊手でコナギ取り



Bゾーン ヨシ、外来種の刈り取り



ボーイスカウト団のザリガニ釣り

7月20日（日）

朝から晴れて強い日差しが照り付けました。作業は、田んぼの水田雑草コナギ取り、ホタル水路木道沿いの草刈り、Bゾーン木道沿いのヨシ、セイタカアワダチソウなど外来種の刈り取り、木村家側土手沿い、木道沿いの草刈りです。作業を終えて皆さん汗だくとなりました。



長い竿の熊手でコナギ取り



木村家土手沿い、木道沿いの草刈り



8月17日（日）

曇りがちの天気湿度は70%を超え蒸し暑い日となりました。猛暑のために開始を30分早め、作業は、稲刈り準備前の稲架（はざ）かけパイプ組み立てとBゾーンのヨシ、セイタカアワダチソウなどの刈り取りです。パイプ組み立ては作業小屋からパイプを搬出し組み立てです。手際よく作業を進め、途中の休息を挟んで約2時間で完了しましたが皆さん汗だくでした。

今後の作業として、会員の稲刈り予定日を9月13日・14日・15日と、名戸ヶ谷小の稲刈り16日の週で調整中の旨をお知らせしました。
(藤平 三郎)



パイプ組み立て作業



Bゾーン ヨシなどの刈り取り作業

新入会員の紹介 ～大学 清志さん～



7月から会員になりました、大学と申します。住まいは天津ヶ丘の塚崎です。趣味はサイクリング、シーカヤック、ペタンク、そして家庭菜園で近くに畑を借りています。きっかけは、今通っている生涯大学の園芸コースで同じ班になった会員の河北様に誘われたからです。1年を通じてのお米作りを楽しみにしています。どうぞ宜しくお願い致します。

9～11月の活動予定

9月13日～15日： 稲刈り

名戸小は16日（予備日18日）

21日：定例活動日 生きもの観察会

10月12日：脱穀

15日：秋の生態調査

19日：定例活動日

11月 3日：収穫祭 ※11月は定例活動休止

注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）

「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷記念病院前」下車

面積：約4,400㎡

湿性植物：53種 生きもの：133種

（2024年、年間を通じて観察した種類）

雑感

育てる会にはリタイア後の2016年6月に入会し9年経過しますが、ほぼ同じ時期に写真サークルにも入会し、あちこち写真撮影に行っています。

主に風景写真を撮っていますが、日中の写真より、やはり早朝の写真や夕景・夜景の写真の方が感動的な写真になるように思います。星景写真や雲海・朝日の写真を撮る場合は、車中泊することもあります。

今回は、ビオトープに因む写真と最近撮った中でお気に入りの写真をご覧ください。

① 脱穀作業と彼岸花（茨城県大子町）

② 矢切の渡し夕景（松戸市）

なお、10月6～9日には、パレット柏の市民ギャラリーでサークルの写真展がありますので、関心のある方はご来場ください。

（堀尾 幸晴）



①



②



<https://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会
発行責任者：小笠原 智